

# 沖仲仕あひこ収話

沖仲仕歴十数年のHさん、沿岸仲仕を昭和二七年頃からのFやん、本船で労災事故にやられて、今は障害年金のBさんらからの聞き書きです。

編集部（以下Oが編集部）

いつごろから港灣へ働きに、そのころの状況は：

H 俺ね、三九年の暴動（第二次）の時には居ったから、三八年頃からやな、今のセンターが出来る前で、港灣の溜り場は南海線のガードから西の方、今、井幸組のあるあたり、港灣の求人バスがズラッと並んで手配師が「サアッいこか、とり切りやで」などドラ声をはり上げていた。

とり切り言うのは、やり仕舞ということやが行ってみると、オールナイトのとり切りやったりしてね、文句言うのと、何時にとり切りやとは言わなんだ、イヤなら帰れというのや。とり切りや早う終わるでとバリバリ仕事させといて、あとの見通しが立つと、イヤがらせをして、

ケツ割りさせるんや、その分だけ手配師や下請の親方のもうけになる。

今の井幸組のところに赤電話が五、六台あって、港灣の手配師はその電話で会社と連絡をとって、注文の人数を集めるんや。沖の本船に向ってポートを出す都合があるので、短時間に多勢集めるため、いろいろウマイ条件を並べて集めるんやが、大抵ウソで条件ちがいが多い、それで港灣ではケツ割が多い、キツイ仕事ときはケツ割り見込んだ人数を集める。ケツ割りがでも親方は損どころか、もうかるが、ダマされて頭にくいてケツ割った方が損をする仕態になっているんや。

俺も当時は、にわかアノコのにわか仲仕でね、土方にも行ったが、街中で土掘りしたりでは、大阪出身で顔見

知りが多いので、地下鉄工事なんかが多かったが、本船へ行くようになって、マンボ（賃金）は安いし、労働条件は悪いし、人は本船土方だのケタ落ちだのと言うが、

船へ行けば人に見られんですむし、見ても外国人やから氣いつかわんでよい。気楽なことはこの上なし、それと手配師と顔なじみになるとエエこともある。例えば朝入りと言うて、本船が朝入港するのが検疫や税関の手続きで十時とか午後とか、あるときは朝から入港待ちして夜の九時に入港ということもあったがそれでオールナイト賃金をくれる。

そういう情報を手配師は知っていて、ケタ落ちに三回行くと、つぎにはそういうエエ目ができる。まあこれが手配師の労務管理みたいなもので、これで何人何十人と労働者と顔つなぎをつくっておく、この人数を多くもっているのが手配師のかいしようというものだろう。

雨の朝なんか、土方はなしアブレた労働者が本船の求人バスに群がってくる、そういうとき手配師はドアを閉めて顔見知りを見つけると、//直行だけや//とドアを開ける。

こういうアメをしゃぶらせておいて、ときには現場でヒドイ目のムテをふるうのだ。

## 昼前とりきり、夕方あけり

O その当時の労働条件、つまり契約はどないなっていました：：：

H 大阪府労働部の西成分室で手配師（求人連絡員）の証明をもらっていて、求人用のハリ紙に条件を記入して分室のバスにもって行くと労働部か安定所の役人がほとんど目もおさずに丸い大きなスタンプを押す、それを求人バスの前に貼って、手配師が人集めをするんやが、//土工 市内 一日契約 一二〇〇円 食、交、労健保有//と書いてあるが、行先が高槻市であったり奈良市であったりして、文句言うと、奈良でも市は市やと言うんや、ケツ割ったらゼニくれんし、夕方まで働いて、ドロドロのまま奈良から電車で帰ってくるんや、一日契約が何時から何時までか分らん、こんな労働基準法違反が、労働部のスタンプを押したら、西成では堂々とやれるんやから役人のすることはなっていない。

港灣の求人では//雑貨揚積荷 大阪港 日中（一日のこと） 一一〇〇円 食、交、労健保有//というハリ紙で、一日の契約時間がはっきりせんから、早くバスに乗ると早く本船に行かされる。

それで先ず手配師に面着してバスに乗り、しばらくしてメシを食うてくるとか言つて、外に出て、人数がある程度できるとマイクロバスで先に送り出すのを見とどけて、最終のバスに乗る。沖へ行ったボートが帰ってきて二回目が出るのに乗ると一時間はおそくなる。ときには昼の弁当運びのボートになることもある。これで先に乗っても、あとからでも賃金は一しよなんやから、要領の悪いものが損をするんや。

港湾ではその他に半夜、オールナイトという求人がある。これも当時は時間がハッキリしてなかった。

// 半夜で何時に帰れるんや // 手配師にきくと // 夜勤の交替が来るまでや // というので乗つてみたら、夜の九時までこき使われる。夜勤の交替なら六時すぎには来ると思つていたら九時頃に本家仲間(常雇)が他の船の仕事が終つて廻つてくる。常雇は時間給だから九時に終つたんでは賃金が安い。それで廻り船をして翌朝まで働くのだ。常雇と言つても出稼の人が多から、金を目当に夜も寝ずに時間稼ぎをして体をスリへらしていく、その間を日雇をダマして使うため半夜という求人をするのだ。

その反対が、とり切り半夜という求人、// 澱粉四百トン取切半夜、何時に終つても半夜払うデ // 手配師が一人ん声をハリ上げる。

んで、重労働の後やからトンカツでメシ食うて、ギャンブルは現場へ行くのはシンドイからノミヤで何点か張つて、パチンコ屋で夕方まで通して、パチンコは負けるはノミヤはハズれるわで、本当なら夕方仕事が終わる時間に半夜の仕事を昼までにやつたばかりにオケラになつてしまふのや。

// 早よゼニもろたら、早よオケラになる // いつもこう云ひ乍ら、相変らず、半夜取切をこりもせずやっている奴がいる。

俺も、ときどきその口だったのが、これでもうけているのは荷役会社、常用にやらせば時間かせぎするのやから、日雇をウマク使つた方が得なんや、それと船会社、早く終れば停泊料が安くてすむ。

## 築港の人足飯場

Fさんは沿岸の仕事ですわ、何年頃から、どんな仕事、どうして港で働くようになったか、労働条件、賃金なども.....

F ワシは二七年頃に港に来たんや、戦前前は岡山で小作百姓しとったが、兵隊に行つてシベリヤから帰つてくのがおそかつたんや、農地解放や云うて小作人も土地

北海道からのジャガイモ澱粉二五キロの紙袋、四百トンなら一万六千袋、これをタタミ三枚位のロープでこしらえたもつこに入れて、はしけに移す作業で、一もつこ三人、四丁場で十二人、はしけで、ならし作業が四人、計十六人でやる。常用はデッキマン(合図係)とウイチマン、船そう(ダンブル)とはしけにホコ取りという、もつこにホコ(ハッカー、フック)をかけはしけするの一人づつ、(このホコとりを入れずに、もつこ毎にメイイホコをやらせると一〇〇円位割増がつく)この仕事は扱量から言つても、一日では多く、残業する位の量であるが、常用は時間給だから、もたもたと夜半過までかけてやる。そこで日雇に取切半夜でやらせる。

もつこを巻き上げると破袋から落下する澱粉をかぶつて、まっ白になる。汗がしみてノリがへバリついたようになる。

汚れと、アホらしさとでヤケクソになつて何時に終つても半夜の賃金くれるというので早く終らせたいばかりに粉まみれで仕事をするので、澱粉のシャというグループ等が半数ほど入つておれば、大てい二時には終る。とびきり、手がそろえば十一時に終るんだ。

労働者なんて考えが単純で、昼頃半夜の賃金もらうと、何かポロもうけしたようにさっ覚して、昼から一ぱいの

をもつようになつたが、外地から帰りがおそかつたので俺は土地もえなんだ。それで農民組合え入つて土地くれえ云うて運動しとつたら、シベリヤ帰りや云うだけて赤や云うて、ボリ公が調べ廻る、アメ公の二世が来るわで、兵隊に行く前からのいいなすけの女は相手の親が引はなすし、アホらしいて村におれん、朝鮮戦争が始まつて都会は景気がええ云うので大阪え来たんやが、シベリヤ船りがたつて、どこも使うてくれん。これもソドバースの変型やと思うけど、大阪駅で寝たら、// 兄ちゃん仕事せえへんか // と聞かけるもんが居た。こんなワシでも使うてくれるんかいな、履歴書もいらん云うし、名前もどうでもええ云うて、今のFという名前も、そのとき手配師がつけてくれたんが、ザッとそのままつづけてるんや。

連れて来られたんが港区の飯場、古い地下足袋と作業服をくれた：：と思つたら十日目の勘定で引かれてた。当時は古着がえらい値うちがあつたんや、汚れたら洗濯して、かわくまで日向ぼっこして番してんととられる。

仕事は、桜島の三菱倉庫で下請の中谷組の亦下請で棉花のデッチ車を引くんや。棉花の原料は棉花と、木へんで書く、昔は日本でも作つていた、それを綿くりして糸にするから糸へんの綿になる、アメリカの米棉、インド、

エジプト、中国の順に輸入している。

沖の本船からはしけに揚げた棉花を桜島の岸壁から揚げて、それをデッチ車で倉庫に入れるんや、米棉なんか三〇〇キロはあるからなれるまではヒロヒロする。倒してもしたら、もう一べんデッチにのせるのが大変や、それできたえられて、腕が上ると、はしけの水切りや荷捌きの仕事え廻されて手かぎの使い方を覚えてゆくんや。倉庫の中で積上げて拵付（ハイツケ）をするようになるには十年はかかる。

棉カギのシャとか拵方とか一人前になるには兄弟子のシゴキがきつかった。

築港村の様子も少しは分ってきたし、少し仕事も覚えてきたし、飯場に居れば雨降りにアブレても飯は食はしてくるけど、ピンヘネが分るにつれてアホらしいなって、境川のドヤに移って、立ん坊するようになった。

境川の市電の車庫から西え、運河から職安の方え何千人というアンコが集って、手配師の指名を待ってるのや、一週間ほどは新顔やから、またケタ落のデッチ引や雑役に行ってた。四五〇円位やった。ドヤがカイコ棚で布団一枚でかしわ餅で寝ると五〇円、朝飯が六〇円位、晩は焼酎とホルモン煮込、飯食うて百五〇円位、それにタバコ代や駄菓子、フロ、バクチで、毎日仕事に行けばええ

定から引いてあったし、飯場の食費は食わんとき分もちゃんと引いてあった。ダマッてトシコ言うても何も契約した訳でもなし、何日分かの日当をもらわんと出たんやから、文句ないハズやがなあ。

あとでだんだん分ってきたが、新顔に対してこういうヤキを入れることで皆んなを押え込む必要からやるヤクザ支配の常とう手段だったんだ。

仲に入った、あのタカリ野郎も数多いアンコの中に、ごく少しいるゴマすり野郎で、兄貴が万才の大夫役なら、ゴマスリがほけ役というような役割なんや。

釜のドヤに居たこともあるが、沿岸の仕事は境川や野田、大湊橋の方がええ仕事（賃金の高い）が来るが、釜えは本船と沿岸ではデッチ引が多かった、築港で直行組がゼニになる仕事につき、境川などで手配師が顔付求人をし、その後足ちん人数を釜え来るんやからケタ落ばかりやった。

鬼の藤原、蛇の間口とか鬼の上組蛇の間口、鬼の上組二度行く奴は親の無い子か前科者、情知らずの日通とかいろいろ云はれたもんだ不思議と間口だけは、どれでも蛇だった、なんで知らんけど。

本船で驚いたんは海陸運輸公社（いまもある）公社なんて云うからどんな立派な会社かと思ったら三

が、シゴかれた翌日は働けんし、雨が降ったら飯も食はんと寝ていた。

ある日アブレて焼酎のんでたら、築港の飯場の追廻しに見つかって、表にひきずり出されて、ドックケルオンドレ駅で寝てくさったのを捨うてもろて、衣食住そろえてもろた恩を忘れさらしたんか、アイサツもなしにトシコさらしてやらねばなし、すると一人のアンコが兄貴さん、もうこれ位でカンペンしたとくはなはれ、ワシがあんばい云うたりますけんかと仲に入ったので、やと止まった。

それからお前えらい汚れて、鼻血も出てる、タオル出さんかいと、えらい親切なんや、汚れをふきとって、酒屋え入り直し、あれや、これやと、呑み食いして、世話になったところにはちゃんとアイサツしてスジを通しとかんと港で働かれへんぞ、ワシが居たから助かったものの、殺されても仕方ないんや境川えほり込まれて死んだ奴もいる。ワシが居たから殺されんで片輪にされんとすんだお前は運がよかつたんやかとサンザンおどかしと思着せを云はれ、あげくの果に前ゼニ持ってるかかと二人分の勘定とタバコ銭まで払はせられた。

駅で拾はれたというけど、向うは手配料もろうて集めに来ているのや、衣食住云うたかて古着も地下足袋も勤

井の下請の大正運輸の下請で、もとは島田組とかであった。ハツタリもええとこや、これが築港では最低タラスの荷役会社、とは聞えがええが、人夫出しに毛生えたよなもの、ケタ陸と云ってたな、丸二がボロ二、中谷がケチ谷とろんな感じがでてたもんや。

### 三ツマと人夫出し

本船の仕事、沖中仕云うのは、どういう仕事をするんですか、ケタ落と云はれる理由は……

大体この世の中で人間のやる仕事云うのは機械でやれん仕事や、船会社や荷主、荷役会社は機械でやれる仕事は、どんどん機械合理化して行きよる。それでやれん仕事というのは条件の悪いものだけが残されている。

沖中仕と世間の人は云うが、港では人足と云うてた。近頃では港労働者と云うてる。

45年頃から合理化が急速に進んできて、それ以前の仕事と、ずい分変わってきたので合理化以前の人力による仕事をしていた頃からの移り変りを例を上げてみようか。

ストラップ（屑鉄）荷揚作業、本船え行った人なら一度はやらされる仕事だ、一万屯位の船ならハッチが六つ位ある、一ハッチに二千屯から二千五百屯の屑鉄の山が

ある。それをタタミ四ノ五帖位のモッコに、手づかみでほり込むのや、一もっこに四人で四丁場、ホコ取だけ常用が入る（これが追廻し役になる）。一もっこに三屯位は入れるが、少ないと上からデッキマンが「もつと入れんかい」とどなりつける。もつこを巻上げると錆と埃がもうもうと舞上る。一時間もせんうちに顔も服も何もかも錆で赤黒く、スクラップと人間の見分けがつかんようになる。鼻の穴も耳も錆でつまってしまう、築港の風呂屋に「スクラップに行った人は体を洗ってから来て下さい」と書いてあった、それ程汚れるのやが、この賃金が一番安いので、それにはワケがある。

スクラップの中にはモーターや電機製品がまざっている。その中の銅や真鍮をたたき出してヨセ屋にもって行くと、それがヨロクになる。屑鉄を熔鉱炉に入れるとき他の金属が混ざっていると鉄の質が弱くなるので製鉄所でも非鉄金属をより分ける、本船から揚げるときに、抜いてしまえば製鉄所はたすかるのや、それで船会社も荷主も見てもんふりするそれをよいことに荷役会社は最低の賃金にしてヨロクで埋合せさせる。

「サア色もの出るで、ソ連船や、スクラップ行こか、行こか」手配師がコマールシャル入りで人集めする。ソ連船は色もの（銅、真鍮など）がよく出るのや、ところが

ここに強敵が現れる、税関と水上警察や、会社は目をつぶるが、役人から見れば密輸入、関税法違反ということになるので、ときどき手入れがある。

折角オールナイト作業の間に飯食う時間も惜んで仮眠もせずにたたき出した色物を針金でくくって体に巻きつけ、海へはまって命を失った人も度々という危険を犯して持出してきたものを税関と水上署はとり上げ、豚箱にほり込み罰金をとるのである。

下請の荷役会社には豚箱のもらい下げ専門のオッサンがいて、一回か二回は厳重説諭とかで釈放させる、これがオヤッサンの世話になったと義利がらみになるんや、買取るヨセヤが手入れを受けたということは聞いたことがない、警察と業者のナレ合いか不思議な話や。

スクラップ作業も今はマグネットで吸い着けて、はしけに落とすので作業員は一人もいらなくなりました。

砂糖と云っても赤土色のザラザラの原糖やが、これも以前はスコップでもつこ入れをしていた、その頃は手配師が「砂糖や砂糖や新聞持って行けよ」と呼び込む、新聞に包んで持って帰ると、冷しアメ屋が安く買取ってくれる。ヨロクをとらせて賃金を低く押えるのやが、今はバケツでつかんでハシケかダンプカーに積むので、作業員は殆んどいらぬ。

Bさんは棉花で大ケガされたそうですね。

### 吊荷の下は地獄

ワタが当って大ケガとは、どういうこと・・・

B 事故が裁判にかかっているので、相手も労働者だし、やろうと思つてやった事故やないので、名前など詳しいことはちょっと・・・

ワタ云うても、外口から来る棉花は三百キロ位の棉をプレスで固めて帯鉄でシメてあるので、手鉤もささらんほど固い、ワタなんでもんじやないんです。

私の場合、6本つり上げて行った棉花がロープがはずれて落ちてきて肩に当り、三年程入院通院をくり返したけど、もとの体になりません、手が肩より上にあがらんようになり障害認定を受けて、これから先のしみのない一生を送らんことになりました。

荷役を急ぐあまり、せまい船に人間を多く入れたのが根本原因だと思いますが、裁判は企業責任は余り追及せず、事故当時のデッキマン、ウインシマンを責めていくようです。彼等もある意味では被害者じゃないですか、被害者の私としては複雑な気持ちです。沿岸での事故はどうですか・・・

F 倉庫の中で棉花の餅くずれがあり下敷になることがある。ワタの下敷云うても布団の綿とちがうんや三百キロもの固まりが何回か崩れるんやから一コロや、はしけの水切り作業をしていて、手鉤をかけた袋が破れて安治川へ仰向けにはまり水死ということもあつた、水深3米のところまで水が汚れているから見えなんだのや、水がきれいやったら助けられたかも知れん、大分前の話やが、今なら河川管理者の責任なんてことになるんやがなあ。

H 本船のダンプルえ降りるダラップを見れば船の設計者が人の命をどう考えているのかうたがう、こんな船を作る造船所も船会社も荷役会社も同じだ、巾50M一だん30Mぐらいの細い鉄のハンゴが50ノ七〇段、垂直に上下り下りするのだから、ちょっと足か手をすべらせると墜落即死ということが度々ある。

港の労働者は土木と一、二を争う高率だときいていますが、F 四年頃までは、大阪港だけで一年に二十四、五人、月に二人位は死んだ、シガ人は一年に延三千人近くやつた。

築港時に別当本山高野山という大きな寺があつて、そのとなりに小さい寺がある。人足が死んだら小さい方の寺で葬式をするんやがシキミだけ同業者から割合ようけ

集まるんや、そうすると小さい寺と高野山の見分けがつかんようになって、家族は、こんな立派な寺で葬式してもらって、と殺された怒りをゴマ化されてしまうのや、高野山で葬式するのは会社のエライ奴かヤー公なんや。港灣病院はいつも満員やった、ノルウェーのチッソ肥料でカブレたときのことや、上組の仕事でね、ミカンの甘味をつける肥料やが、汗かいたり体が湿っているとあとで炎症を起すんや、荷主から説明書がきていたのを現場へ通さなんだんや、始めての荷物でこういうことがときどきある。

翌日になって内股やら腹の皮や皮フの弱いところが赤くカブレ三日目から黒色になりバリバリにヤケドの跡みたいになってきた。こらあかん云うので五人程病院へ行っ

た。  
このときは会社も謝りよったけどなあ、一人が、チッソのついた手で小便しよったんで、アソコまっくろけにカブレたんや、ちょうど女がでて二月目位云うてな、女が泣くんや、二、三ヶ月で治ったけどな、クスリも看護婦がつけてくれたので自分でつけとった、

H 沖の本船でケガすると大変なんや、三菱の下請で中谷運輸が鉱石をバケットで荷揚していたときやった、もう殆んど終り近くにバケットにかからん所のさらえをし

を調べて、監督署の立入検査をして、新聞に出て大騒ぎですね。

港の事故は、監督署が知ったときは船が出港したあとなどということが常で、事故が起きても一時間もしたら現場は貨物で埋まって調べようがない、結局は会社の報告書がウノミされてるのちがいますか。

港運業者が安全パトロールを毎週火曜日にやっていますが、朝監督が「今日はパトが来るからアゴヒモしめとけや」と注意します。

ヘルメットかぶっていたら事故は起らんのかいと云いたくなります。第一パトロールの日が前もって分つてい

るといのでオカシイです。  
// 抵抗なくして安全なし// 組合の云うてたスローガン

ケガと弁当は自分もちと昔から云いますが、弁当はくれるようになって、ケガの自分もちは変りません。

辛かったこと楽しかったこと、いろいろあると思いがすが・・・

F 辛かったこと云うても、ものごと辛がっていては仲仕はでけまへんわ、アホらしいこともゲンクソ悪いことも、ちよっとだけ良かったことも、毎日々々そのくり返しやさかい、夏の暑い日照りのはしけでデンプン袋つ

ていたとき、ウインチが不調でバケットがふり込んできてM君の足首に当たたんや、地下足袋の破れたところから骨が見える。デッキからは深いダンブルの中がよう分らんや、大声あげても聞えんので、身ぶり手ぶりで合図して急救箱をロープで降さして、ハサミで足袋とズボンを切り、傷口にオキシフルをかけ、ガーゼをかぶせる。それからワイワイ騒ぐ奴らに、バケットをはずさせ、ベニヤ板を三枚程重ねてロープでしぼり、俺がアグラかいて座ってそのヒザに、ちぎれかけの足をのせて、ウインチでつり上げたのやが、一番ハッチの深さはビルの6階位はある、ベニヤ板はミシミシ鳴るし、ウインチは事故を起す程不調でゆれるし落ちたら俺も共々オロクジ(お六字、ナムアミダブ)、通りがかりのボートに降されたときはホットした、中央突堤で無線電話で連絡したので来ていた車で病院へ行ったが、俺のズボンは中まで血で固っていた。この間一時間半はかかった。

結局M君は足を切断し二年程のち帰りたいと云い乍ら郷里へ帰って行った。

Bさんは事故の被害者ですが・・・

B 事故があまり多いと、あまたか、と事故ズレしてしもうてるようですね、

一般の工場では大事故が起きたら仕事をやめて、原因

かんでヘド吐く程汚れて、ヤケクソでバリバリ仕事して昼前に終って、体洗って生ビールのんでサッパリ午前中のこと忘れて、役所勤めでこんなことでけへんで、もうこの位にしてんか・・・

B、H そうやそうや

もっとたくさんのお話をきかせてもらいましたが、長くなるので割愛しました。

話の中に出てくる仲仕の余ロクについて、井原西鶴の日本永代蔵のなかに米蔵の仲仕が米をこぼしてゆくと女房、子供がホウキでかき集める話があります。

米の主産地でもない大阪の名物に米菓子の岩おこしがつくられるのも、もとは仲仕や米船の船頭の余ロクで、できたものだと云はれています。